

令和6年度事業報告

認定こども園 花園

1. 質の向上

①『一人をみんなで みんなで一人を保育する』

子ども一人ひとりの思いや気持ちに寄り添いながら、受け止めたり認めたりすることで、安心して自分の思いを表現し、過ごせる雰囲気づくりを大切にすることが出来たと思う。また、子どもたちの『やってみたい』や『○○がしたい』という言葉に耳を傾け実践につなげていける環境づくりが出来ていた。ただ、子どもの発達や興味関心には個人差があることや職員の意思疎通の不十分さから、課題は残る。特に、保育者の育成という観点では、伝えていくことの、難しさを感じる。

②「みあいっこ保育」の継続、保育の質を高める

昨年度から実施していた、「みあいっこ保育」を継続して行うことが出来た。お互いの保育の良いところ、工夫している事などを話すことで、次への保育の課題に気付く機会にもなった。また、以上児、未満児にわかつて研修を行う中で、非常勤職員の保育の疑問なども聞くことが出来、保育に対する共通理解がもてる時間にもなった。継続した保育をすすめていくためには、今後もこのような研修時間をもち、保育の質の向上に努めていきたいと思う。

③保護者とのコミュニケーションを高める

送迎時における保護者とのコミュニケーションを中心に連絡帳なども活用して、保護者の思いを把握し信頼関係を築くことを心がけたことで、不安定な家庭に対する支援を的確にすすめることが出来ていたと思う。

2. 人材定着・確保への取り組み

①園児入園に向け、花園PR活動をすすめる

園開放を月1回から2回に増やしたことや、継続して利用できるような遊び内容の充実を図った。また、未就園児をターゲットとした遊びひろばを開催し、花園を知ってもらうことを目的にイベントを実施する。ポスターやチラシの効果もあり、次年度の入園数獲得につながる結果となった。また、インスタグラムの開設をし、少しづつではあるが、園の様子などを発信することが出来た。

3. 生産性の向上

0歳児に対してオムツのサブスクをはじめる。保護者の負担軽減、職員の業務軽減になり、保護者からも名前の記入や準備などがなくなり、喜んでいただけた。次年度には未満児の食事用のエプロンや口拭き、オムツ替えシートなどの個人持参の廃止や3歳以上児の主食の提供も行い、保護者の負担軽減につなげていく。